

# 品目：だいこん

環境こだわり農産物の基準（5割以下の基準）

化学合成農薬（延べ使用成分数） 7成分以内（露地秋冬）

化学肥料（窒素分量） 8kg/10a 以内（露地秋冬）

## 技術体系例 だいこん 露地秋冬

生育ステージ	作付前				播種 播種時	生育期間中													
	作付 体系	7~ 8月	前作	播種前		全般			生育初期		生育中期		生育 後期						
防除方法 ・ 使用資材 ・ 薬剤名等	ほ場 ローテー ション	太陽熱消 毒	対抗植物	抵抗性品 種	土壌消毒 剤	殺虫 剤	捕殺	病害株の 引き抜き	フェロモ ントラップ	マルチ被 覆	防虫網被 覆	殺虫 剤	(臨時防 除)殺菌 剤	微生物殺 菌剤	殺虫 剤	(臨時防 除)殺菌 剤	殺虫 剤	B T 剤	殺虫 剤
立枯性病害	★	★					★												
白さび病							★						●						
軟腐病	★						★		★					★		●			
萎黄病	★	★		★															
横縞症				(★)															
わかか症													●						
ウイルス病											★								
ヨトウムシ							★				★	●						★	
ハスモンヨトウ							★	★		★									
アオムシ							★			★	●						●	★	●
コナガ										★	●						●	★	●
ハイマダラノメイガ										★	●								
アブラムシ類						●				★									
キスジノミハムシ			★			●				★			●						
カブラハバチ										★									
ネキリムシ類							★			★			●						
ダイコンサルハムシ										★									
ネグサレセンチュウ	★	★	★		●														
(例)使用農薬等		(石灰窒素)	ヘイオーツ	Y R 品種など	D-D	スタークル粒剤			フェロデインSL			プレバソ ンフロア ブル5	(ダコニ ール100 0)	バイオキ ーパー水 和剤	ダイアジ ノン粒剤 5	(スター ナ水和 剤)	アフア ーム乳 剤	トアロー 水和剤 CT	アフア ーム乳 剤
化学合成農薬成分数		(1)			1	1						1	(1)	1	(1)	1			1

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

\* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグラウンドカバープランツを植栽する。

## 病気 **萎黄病** (いおうびょう)



萎黄病による維管束の褐変被害



維管束の褐変

### 発生しやすい時期

8月下旬頃～11月上旬頃

### 原因（発生要因）

- ・ 土や、被害にあった根などについたカビから伝染します。
- ・ すでに病気を持っている種から病気がほ場に持ち込まれます。
- ・ 高温期に多く発生します。
- ・ 病気の出たほ場から、土や水により広がります。

### 対策（減農薬技術）

- ・ 病気の出たほ場が原因となりますので、病気の出たほ場では作付けをひかえます。
- ・ 栽培するほ場では、だいこんの連作を避けます。
- ・ 太陽熱消毒などの土壌消毒をおこないます。
- ・ 品種名に「YR」のついた抵抗性品種を選びます。
- ・ 種子伝染するので、殺菌処理した種を使います。
- ・ 完熟した堆肥を使います。未熟な堆肥は病気を増やします。

病気 **べと病** → はくさいの頁を参照

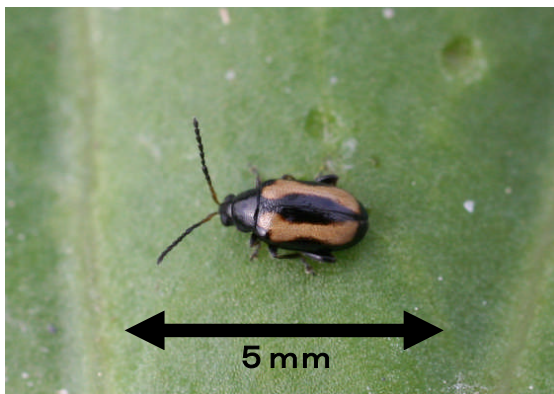


葉表の病斑



葉裏の病斑

害虫 **キスジノミハムシ**



キスジノミハムシ成虫



キスジノミハムシ幼虫による被害

### 発生しやすい時期

4月頃～10月頃 特に7～8月に発生多い

### 原因（発生要因）

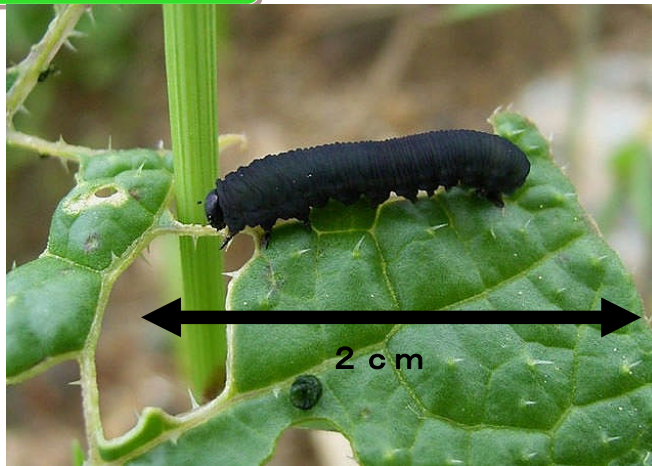
- ・ 成虫が飛びはねて葉に取りつき、小さな穴を開けます。
- ・ 成虫は株元に卵を産み、幼虫は根をかじります。
- ・ アブラナ科野菜を連作すると発生が多くなります。

### 対策（減農薬技術）

- ・ 栽培するほ場では、アブラナ科野菜の連作を避けます。
- ・ アブラナ科雑草（イヌガラシなど）を除草します。

- ・ 播種時に、スタークル粒剤またはダイアジノン粒剤5などを使用します。キスジノミハムシが増えてからでは間に合いません。
- ・ 防虫ネットなどで産卵できないようにします。
- ・ ほ場の周囲を光反射シートで覆うと、成虫が飛んでくるのを減らせます。

## 害虫 **カブラハバチ**



カブラハバチの幼虫

### 発生しやすい時期

5月頃～6月頃、10月頃～11月頃

### 原因（発生要因）

- ・ 幼虫やまゆの状態ですぐ冬を越し、5月頃に成虫になります。
- ・ 成虫が飛んできて卵を産みつけます。
- ・ 軟弱徒長した株は、風通しが悪くなり、発生が多くなります。

### 対策（減農薬技術）

- ・ 密植をさけ、風通しをよくして、健全に育てます。
- ・ 防虫ネットなどで産卵できないようにします。
- ・ 登録薬剤が少ないので、アブラナ科雑草（イヌガラシなど）を除草して虫を減らします。
- ・ 数が少ないうちは手で幼虫を取り除きます。